

ハーモニア

HARMONIA

キリンホールディングス株式会社

第176期 株主通信

2014年1月1日から2014年12月31日まで

Quality with Surprise

KIRIN



KIRIN

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、当社代表取締役社長に就任いたしました磯崎功典でございます。

私たちキリングroupは、「自然と人を見つめるものづくりで、『食と健康』の新たなよこびを広げる」という経営理念のもと、酒類、飲料、食品、医薬などの事業をグローバルに展開し、卓越した品質でお客様の喜びや笑顔に貢献する企業グループであり続けたいと考えています。

現在は、2012年に策定した長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021（KV2021）」の実現を目指し、日本総合飲料事業の再成長、海外総合飲料事業の成果創出による企業価値向上に取り組んでおります。2015年はその取り組みを一層加速してまいります。

株主の皆様には、今後ともキリングroupの成長にご期待いただくとともに、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長

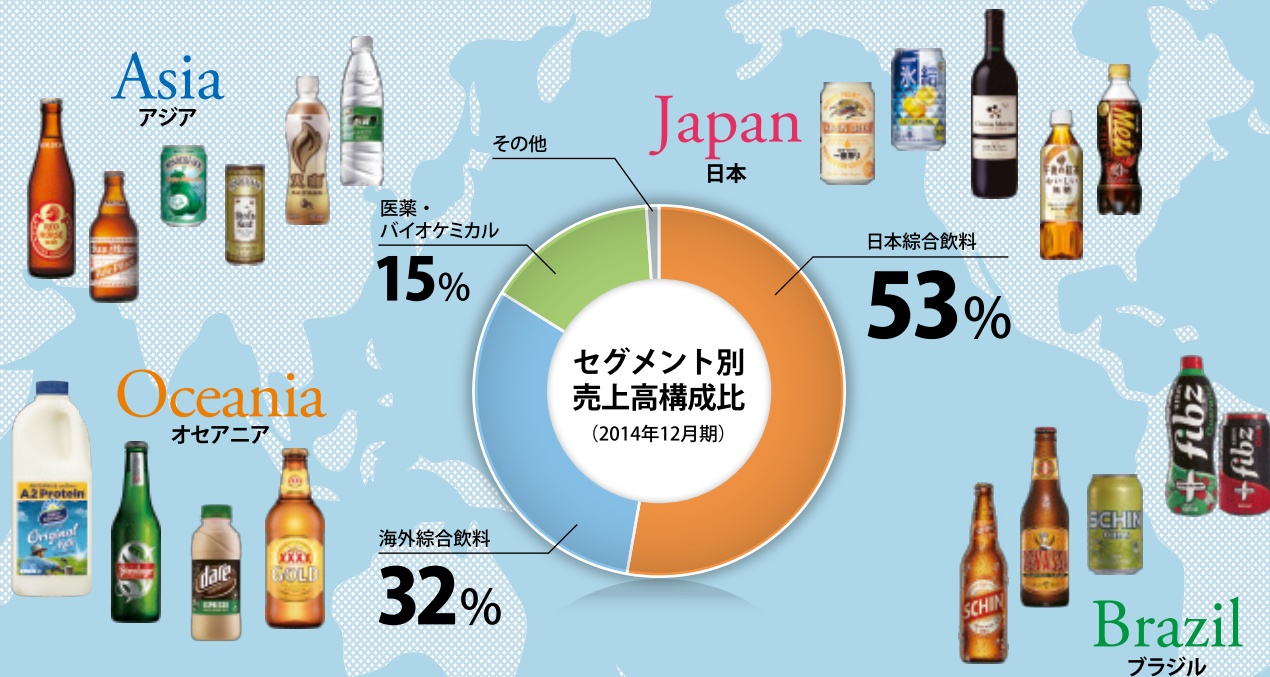
いそ ざき よし のり
磯崎 功典

キリングroup長期経営構想

「キリン・グループ・ビジョン2021」(2012年10月15日発表)

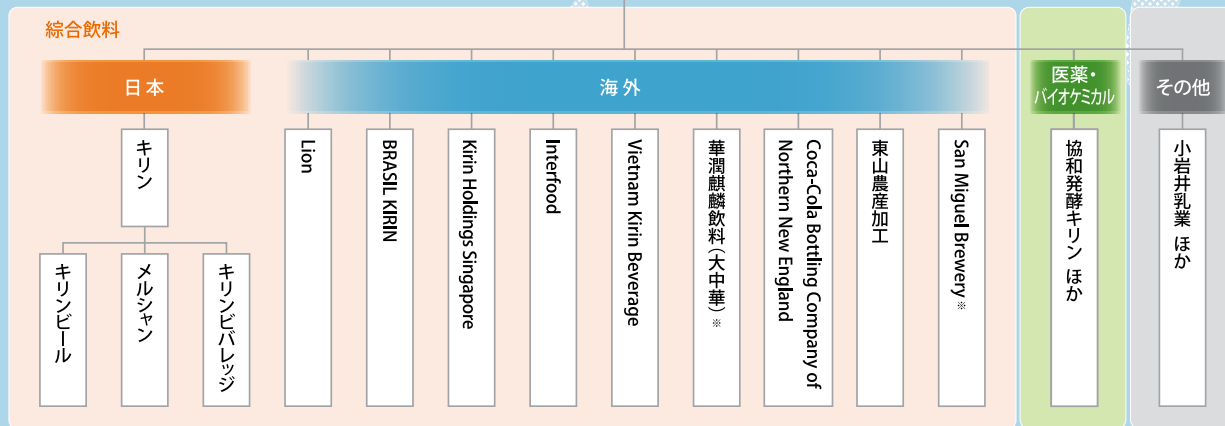
- お客様本位・品質本位に基づく価値作りで、人と人との絆を深める
- 多様な人々が生き活きと働き、地域社会と共に発展し、自然環境を守り育てる企業グループとなる
- 「食と健康」の分野でグローバルな事業展開を行い、それぞれの地域に根ざした自立的な成長を遂げる

世界に広がるKIRINグループ



グループ会社一覧 (2015年1月1日現在)

キリンホールディングス



※ 持分法適用会社

日本総合飲料事業を中心に、 反転・攻勢から再成長へ



当期の概況

2014年の世界経済は、緩やかな減速傾向をもって推移するなかで需要は低調であり、日本でも消費税率引き上げ後、個人消費の回復には足踏みが見られました。

こうしたなかでキリングroupは、「ブランドを基軸とした経営」を展開し、各事業が自律的に成長する取り組みを推進しました。

国内では、各社が強い商品ブランドの育成と新価値創造に努めました。キリンビール社では旗艦ブランドである「キリン一番搾り生ビール」の強化を最優先に取り組み、販売数量は前年を上回りましたが、ビール類全体としては前年を下回りました。一方、RTD*は主力商品に加え新商品の販売が好調だったことから、前年を大幅に上回る結果となりました。メルシャン社では「フレンジア」をはじめとする主力ブランドの強化により全体の販売数量が増加しました。キリンビバレッジ社では旗艦ブランド「キリン 午後の紅茶」の販売数量は前年並みとなりましたが、夏場の天候不順や日本茶等を中心とする競合他社との競争が激化した結果、全体では前年を下回りました。コスト削減にも取り組みましたが、販売数量減少の影響が大きく日本総合飲料事業は減収減益となりました。

海外においては各地域統括会社が、それぞれの市場の

※ RTD: Ready to Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料

環境変化に自律的かつスピーディーに対応することにより成果の創出に努め、増収増益となりました。

医薬事業では、薬価基準引き下げの影響を受け、減収減益となりました。バイオケミカル事業では、医薬品原薬が堅調だったほか、海外事業で円安の影響を受け、増収増益となりました。

これらの結果、連結売上高、連結営業利益、連結経常利益は前年より減少し、連結当期純利益については、株式譲渡による投資有価証券売却益等を計上した前年に比べ大幅に減少しました。

なお、1株当たりの年間配当は、前期比2円増配の38円（中間19円、期末19円）とさせていただきます。また株主還元のさらなる充実を図るため、約197億円（株式総数約1,599万株）の自己株式を取得しました。同時に個人投資家の投資機会拡大と株式の一層の流動性向上のため2014年4月1日より単元株式数を1,000株から100株へ変更しました。

次期の見通し

2014年は日本総合飲料事業の再成長、海外総合飲料事業の成果創出に取り組みましたが、日本・ブラジルにおいて販売数量が計画を下回る状態が続きました。グループ全体としても「キリングroup2013年-2015年中期経営計画」で想定した成長ペースとの乖離が生じ軌道修正が必要となったことから、2015年を、中期経営計画の最終年度であると同時に、2016年から始まる次期中期経営計画のゼロ年度と位置づけ、引き続き日本、海外での重点課題に取り組みます。

取り組みの実効性をより確かなものにするため、キリン

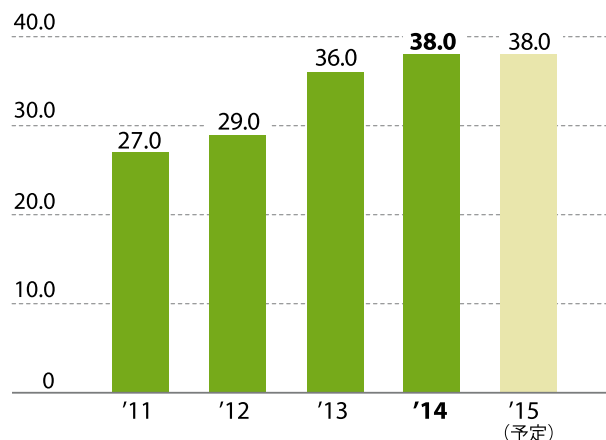
ホールディングス社とキリン社を兼務する執行役員を新設し、意思決定と執行をより緊密に連携させる経営組織体制へ変更します。また、海外事業についても、ブラジルキリン社および東南アジアの担当執行役員をキリンホールディングス社に設置します。これらにより、グループ本社であるキリンホールディングス社と地域統括会社がより一体的に、日本総合飲料事業の再成長、海外総合飲料事業の強化にスピーディーに取り組んでいきます。

2015年のキリングroupは、新しい経営体制のもと、日本総合飲料事業では中長期視点に立ったブランド投資のために減益を計画するものの、グループ全体で増収増益を目指します。

なお、配当については、中期経営計画で掲げた連結配当性向30%を目途とし、38円を予定しています。

1株当たり配当金

(単位:円)



日本総合飲料事業での取り組み

再成長に向けて 1 成長を支えるブランド・カテゴリーを強化

日本総合飲料事業では、2010年から低下が続くビール類のお客様支持率を上昇に転じさせることを最重要課題として取り組みます。

取り組みの柱は、中長期的視点に立った一貫した強いブランドの育成であり、各カテゴリーにおける旗艦ブランドの強化に引き続き重点を置きます。なかでも麒麟のものづくりを象徴するブランドである「一番搾り生ビール」に最も注力し、「一番搾り製法」の価値を実感いただける取り組みを強化するとともに、飲食店や量販店などでのお客様との接点を拡大します。また海外でもコンセプトショップや「フローズン＜生＞」を展開し、国内外のお客様に支持されるブランドとして育成します。

「午後の紅茶」は、発売から30年目を迎えるにあたってリニューアルし、紅茶カテゴリーの拡大を図ります。また、日本ワイン「シャトー・メルシャン」ブランドの育成のため、

社内に立ち上げた専門組織が一貫した活動を推進し、お客様の支持獲得を目指します。

同時に、今後の成長余地が大きいRTDおよび清涼飲料を成長ドライバーと位置づけ、ブランド育成にも取り組みます。若年層や女性を中心に市場拡大が見込まれるRTDカテゴリーでは、「氷結」「本搾り™」「ビターズ」を3本柱として育てます。清涼飲料では市場規模が大きい炭酸・コーヒー・無糖茶の3カテゴリーにおけるブランド育成・強化を進めます。特に2015年に注力する炭酸カテゴリーでは「メッツ」ブランドから大人も手に取りやすい高炭酸・カロリー控えめの新商品を3月に発売しました。

また、中長期での成長実現に向けたブランド強化の資源を創出するために、製造・物流一体となったコスト削減にも引き続き取り組みます。

一貫した強い商品ブランドの育成



成長ドライバーとして強化するカテゴリー



キリンの強みである「品質」を極めることで、飲む人を驚かせたい——。その想いを“Quality with Surprise”というブランドメッセージに込めて、中長期の再成長の原動力としていきます。

再成長に向けて 2 時代の潮流を捉えた提案で、お客様に驚きや感動を

キリンならではの“ていねいなものづくり”と“新しい技術”により、4つのキーワードでお客様や社会にとっての新たな価値を創造します。

● 新たなカテゴリー創造

新しいスタイルの発泡酒「フレビア」、乾杯のお酒「ハードシードル」などを通じて、若年層を中心にお酒の楽しさを伝えます。清涼飲料では、世界中のお母さんの知恵にキリンならではの“ひと手間”を加えた「世界のKitchenから」を通じて新しい味を伝えます。

● 上質なおいしさへのこだわり

「一番搾りプレミアム」「別格」をはじめ、キリンならではの“ていねいなものづくり”で、原材料にもこだわりぬいた商品を通じて上質なおいしさを提供します。

● 健康価値の提案

機能性とおいしさを両立した発泡酒「淡麗グリーンラベル」

「淡麗プラチナダブル」に加え、世界で初めて※1糖質0※2・プリン体0※3・カロリーオフ※4の機能性を持ち合わせた新ジャンル「のどごし オールライト」により幅広いお客様のニーズにお応えし、機能系商品市場のさらなる活性化を図ります。清涼飲料では、プラズマ乳酸菌®を配合した「まもるチカラのサプリ」などで健康的なライフスタイルを応援します。

● 新たなライフスタイルの提案

クラフトビールに注目が集まるなか、「SPRING VALLEY BREWERY (スプリングバレーブルワリー)」※5や「グランドキリン」など、“つくり手の顔が見える”キリンのクラフトビールを通じて、今までにないビール体験を提供し、多様な個性を楽しめるビール文化の醸成に取り組みます。

※1 アルコール入りビールテイスト飲料において(当社調べ)

※2 100ml当たり糖質0.5g未満のものに表示可能(栄養表示基準による)

※3 100ml当たりプリン体0.5mg未満のものをプリン体0と表示

※4 100ml当たり20kcal以下のものに表示可能(栄養表示基準による)

※5 ブルワリー(醸造所)併設店舗が東京・横浜で2015年春オープン

時代の潮流を捉えた新価値創造



新カテゴリー

上質

健康

ライフスタイル

海外総合飲料事業での取り組み

オセアニアのライオン社では、酒類事業において、基盤ブランドや成長する高価格帯カテゴリーであるクラフトビールなどのブランドを引き続き強化するほか、微減が続くビール市場全体の活性化にも取り組みます。飲料事業では、原材料価格の変動に影響されにくい事業構造への転換を目指し、注力するカテゴリー・ブランド・商品を絞り込むとともに、シンプルな生産・物流体制の構築によりコスト低減を図ります。

ブラジルキリン社では、中期経営計画策定時の前提を見直し、今後のビール・清涼飲料の事業環境に合った戦略の実行と事業基盤づくりに取り組みます。短期的には強みのある地域・チャネル・商品に注力しながら、主力ブランドの価値向上を図るとともに、マーケティング費用の効率的活用によって収益性を高めます。そして販売網の改善、営業活動の効果最大化、強力なブランドポートフォリオの構築など、中期的視点で事業基盤を整備・強化していきます。

東南アジアでは、キリンホールディングスシンガポール社がこれまで以上にキリンホールディングス社と一体となり、酒

類・清涼飲料事業の基盤強化と成長機会の探索を推進します。

CSV※(社会との共有価値の創造)の実践

キリングroupは、持続的な成長を実現するため、CSVを経営戦略の中核として実践しています。今後もグループの強みである多様性、技術力、お客様や社会への深い洞察をもとに革新的な商品やサービスを生み出し、「人や社会のつながりの強化」や「健康」などの注力課題に取り組んでいきます。事業を通じて社会課題に取り組むとともに、ブランド力向上、競争力向上を実現し、キリングroupのさらなる成長を促す原動力としたいと考えています。

※ CSV: Creating Shared Valueの略。社会課題への取り組みによる社会的価値の創造と企業の競争力の向上を両立させる考え方

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長

磯崎 功典

オセアニア



〔ビール〕
フォーエックス・ゴールド



〔乳飲料〕
デア



〔ビール〕
スキン



〔清涼飲料〕
スキン

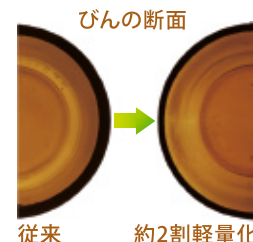
ブラジル

TOPICS

環境に配慮した 国内最軽量の容器を導入

2014年11月から従来品に比べ約2割の軽量化に成功した国内最軽量*のビール中びん(リターナブル)を導入。2015年秋から全国展開し、資源や運送時の燃料低減によるCO₂排出量削減に貢献します。

※ 2015年1月9日時点



連結業績ハイライト(2014年)

» 売上高

2兆1,957億円

(前期比2.6%減)

次期予想 2兆2,700億円(前期比3.4%増)

» 営業利益

1,145億円

(前期比19.8%減)

次期予想 1,170億円(前期比2.1%増)

» 経常利益

942億円

(前期比28.7%減)

次期予想 1,000億円(前期比6.1%増)

» 当期純利益

323億円

(前期比62.2%減)

次期予想 400億円(前期比23.5%増)

» EBITDA※

2,731億円

(前期比9.4%減)

次期予想 2,760億円(前期比1.0%増)

» 1株当たり利益※

118円

(前期比3.3%減)

次期予想 121円(前期比2.5%増)

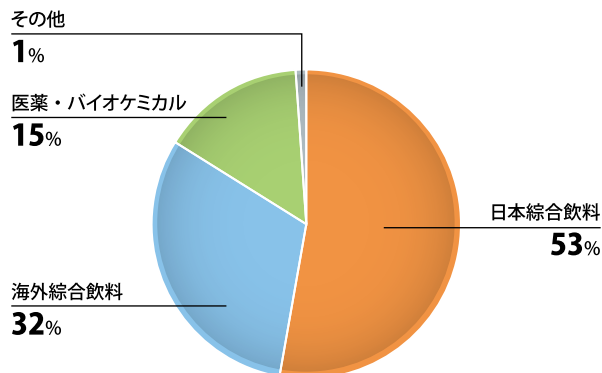
※ 特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしています。

【用語解説】EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization

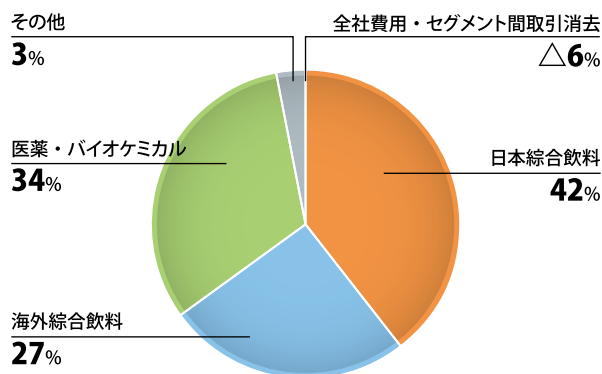
税引き前利益に支払い利息と減価償却費を加算したもので、グローバル企業における金利や税率、会計基準等の違いによる企業の見かけ上の利益格差を抑えるための指標として用いられ、広義のキャッシュ・フローを意味します。

セグメント別概況 (2014年)

■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別営業利益構成比



日本総合飲料事業



- ▶ 「一番搾り」ブランド、RTD、ワインの販売数量が増加
- ▶ 消費増税後の環境変化や夏場の天候不順により、ビール類・清涼飲料の販売数量が減少
- ▶ 日本総合飲料事業全体では減収減益

売上高 | 1兆1,529億円 ^{前期比} 2.3%減

次期予想 | 1兆1,900億円 (前期比3.2%増)

営業利益 | 481億円 ^{前期比} 22.4%減

次期予想 | 380億円 (前期比21.1%減)

海外総合飲料事業



- ▶ オセアニアでは、酒類事業は増収増益、飲料事業が減収減益
- ▶ ブラジルでは、販売数量は減少したものの単価アップで増収増益
- ▶ 海外総合飲料事業全体では増収増益

売上高 | **6,931** 億円 前期比 1.2%増

次期予想 | 7,100 億円 (前期比2.4%増)

営業利益 | **312** 億円 前期比 1.9%増

次期予想 | 385 億円 (前期比23.2%増)

医薬・バイオケミカル事業



- ▶ 医薬事業は薬価基準引き下げ、研究開発費増加で減収減益
- ▶ バイオケミカル事業は医薬品原薬の伸張、円安から増収増益
- ▶ 医薬・バイオケミカル事業全体では減収減益

売上高 | **3,251** 億円 前期比 1.9%減

次期予想 | 3,460 億円 (前期比6.4%増)

営業利益 | **388** 億円 前期比 28.5%減

次期予想 | 445 億円 (前期比14.5%増)

その他事業

- ▶ キリン協和フーズ社が連結対象から外れたことにより減収減益

売上高 | **245** 億円 前期比 57.6%減

次期予想 | 240 億円 (前期比2.1%減)

営業利益 | **30** 億円 前期比 17.8%減

次期予想 | 30 億円 (前期比2.7%減)

要約連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期 (2014年12月31日現在)	前 期 (2013年12月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	801,830	814,788
現金及び預金	49,450	113,759
受取手形及び売掛金	408,709	396,113
商品及び製品	161,391	136,494
仕掛品	35,670	34,488
原材料及び貯蔵品	49,203	54,063
繰延税金資産	29,854	27,432
その他	71,170	56,297
貸倒引当金	△ 3,620	△ 3,860
固定資産	2,164,038	2,081,667
有形固定資産	798,398	764,378
無形固定資産	849,356	836,936
投資その他の資産	516,283	480,351
資産合計	2,965,868	2,896,456

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 (2014年 1月1日から 2014年12月31日まで)	前 期 (2013年 1月1日から 2013年12月31日まで)
売上高	2,195,795	2,254,585
売上原価	1,252,315	1,287,590
売上総利益	943,480	966,995
販売費及び一般管理費	828,930	824,177
営業利益	114,549	142,818
営業外収益	15,746	16,555
営業外費用	36,085	27,239
経常利益	94,211	132,134
特別利益	8,668	73,227
特別損失	25,000	48,155
税金等調整前当期純利益	77,879	157,206
法人税等	33,019	53,257
少数株主損益調整前当期純利益	44,859	103,948
少数株主利益	12,466	18,292
当期純利益	32,392	85,656

(単位:百万円)

科 目	当 期 (2014年12月31日現在)	前 期 (2013年12月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	784,671	659,898
固定負債	845,485	935,831
負債合計	1,630,157	1,595,729
(純資産の部)		
株主資本	957,047	980,071
資本金	102,045	102,045
資本剰余金	81,417	81,417
利益剰余金	848,381	850,511
自己株式	△ 74,797	△ 53,903
その他の包括利益累計額	144,786	95,790
その他有価証券評価差額金	49,556	44,506
繰延ヘッジ損益	827	128
土地再評価差額金	△ 2,140	△ 2,581
為替換算調整勘定	110,259	53,737
退職給付に係る調整累計額	△ 13,716	—
新株予約権	332	306
少数株主持分	233,544	224,558
純資産合計	1,335,711	1,300,726
負債純資産合計	2,965,868	2,896,456

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 (2014年 1月1日から 2014年12月31日まで)	前 期 (2013年 1月1日から 2013年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	155,247	205,517
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 139,397	85,526
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 80,701	△ 272,357
現金及び現金同等物に係る換算差額	109	8,743
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 64,741	27,430
現金及び現金同等物の期首残高	105,472	78,041
現金及び現金同等物の期末残高	40,730	105,472

(注) 百万円未満を切り捨てて表示しています。

キリン オンラインショップ DRINXのご案内



ドリンクの未来を創る

新たなドリンクライフを提案するキリン
オンラインショップ「DRINX」では、話題のクラフトビール「SPRING VALLEY BREWERY」をはじめとするDRINX限定商品が続々と登場していきます。

会員登録はこちらから



会員限定特典の情報をお届けします。

<https://www.drinx.jp/member/form.html>

平成26年12月期 株主様優待のご案内

100株以上保有株主様
から対象になりました

豊富なラインアップから
好きな商品を選べます

株主様限定の商品も
ご用意しています

持ち株数に応じて豊富な商品ラインアップから1品お選びいただけます

100株以上
1,000株未満
保有株主様
(ラインアップ一例)



酒類の詰め合わせ
(合計6本)



清涼飲料の詰め合わせ
(合計7本)



キリンシティお食事券
1,000円相当



サッカー日本代表応援グッズ
(マフラータオル)

1,000株以上
保有株主様
(ラインアップ一例)



一番搾りプレミアム
ギフトセット(11本)



酒類・ノンアルコール飲料の
詰め合わせ(合計18本)



ワイン詰め合わせ
(赤・白各1本)



サッカー日本代表応援グッズ
(マフラータオル+Tシャツ)

(注) 商品の内容に変更となる可能性があります。

ご優待品お届けの流れ

4月未だ※



ご希望の優待品の番号を記入し、申込はがきをポストへ投函してください。
はがきの半券は保管ください。

4月～6月



株主名簿に登録されているご住所へお届けします。

※ 期限までにお申込みがない場合には、当社にて選んだご優待品をお届けします。

詳細は3月初旬、対象の株主様宛に送付される「定時株主総会招集ご通知」にご案内と申込はがきが同封されていますので、ご確認ください。
当社コーポレートサイト(<http://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/stock/yuutai.html>)にも詳細を掲載しています。

■ 会社概要 (2014年12月31日現在)

商号	キリンホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※ 2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
資本金	102,045,793,357円
従業員数	78人 (キリンホールディングス連結従業員数: 39,894人)
本社所在地	〒164-0001 東京都中野区中野四丁目10番2号 中野セントラルパークサウス
売上高	2,195,795百万円 (2014年12月期キリンホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略策定及び経営管理

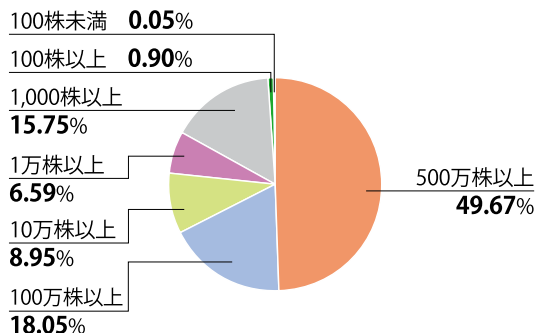
■ 役員一覧 (2015年3月27日現在)

取締役会長	三宅 占二
代表取締役社長	磯崎 功典
代表取締役常務執行役員	西村 慶介
取締役常務執行役員	伊藤 彰浩
取締役常務執行役員	野中 淳一
取締役常務執行役員	三好 敏也
社外取締役	三木 繁光
社外取締役	有馬 利男
社外取締役	荒川 詔四
常勤監査役	鈴木 政士
常勤監査役	石原 基康
社外監査役	岩田 喜美枝
社外監査役	橋本 副孝
社外監査役	森 正勝

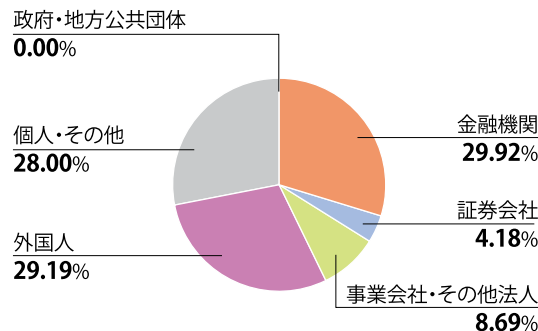


左から西村慶介、三宅占二、伊藤彰浩、磯崎功典、野中淳一、三好敏也

■ 所有株数別分布状況



■ 所有者別分布状況



■ 発行済株式総数 965,000,000株

■ 株主数 145,836名

■ 大株主 (小数点以下第3位を切り捨て)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	43,282	4.48
明治安田生命保険相互会社	32,996	3.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	32,446	3.36
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,251	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	15,977	1.65
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	14,869	1.54
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY	14,397	1.49
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	13,861	1.43
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	11,376	1.17
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	11,056	1.14

(注) 2014年12月31日現在、上記所有株式のほかに、当社は自己株式を52,452千株所有しております。

2015年2月27日付で自己株式を51,000千株消却したため、現在の発行済株式総数は、914,000千株となっております。

株式に関する手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式の各種手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
● 郵送物の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般のお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（平日9:00-17:00）
● 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（平日9:00-17:00） 手続き用紙のご請求方法 音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般のお問合せ	株主名簿管理人	

※ 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	定時株主総会・期末配当金12月31日 中間配当金6月30日
定時株主総会	3月下旬開催
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（平日9:00-17:00）
公告の方法	電子公告により行います。但し、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.kirinholdings.co.jp/
証券コード	2503



この報告書は、「FSC®認証紙」および石油系溶剤の代わりに植物油を用いた「植物油インク」を使用し、有害廃液を排出しない「水なし印刷方式」で印刷しています。本冊子の印刷・製本工程で使用した電力は、日本自然エネルギー株式会社が発電したグリーン電力（風力）でまかっています。